Review Marketing Report



全国飲食店開業ランキング レポート ver9

～2026年1月～3月・過去3年間比較～

＜調査方法＞
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

Contents

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の飲食店に関する調査結果を発表いたします。

全国飲食店開業ランキング　2026年1月～3月

飲食店開業全国TOP5/2026年1月～3月 ･･･P4
全国飲食店開業ランキング ･･･P5
全国飲食店開業ランキング/2024年～2026年 ･･･P6
2026年は過去3年間で最多、全3か月で前年を上回る ･･･P7
北海道と京都府の激増を探る ･･･P8～9

全国飲食店ジャンル別開業ランキング　2026年1月～3月

飲食店ジャンル別開業ランキング ･･･P11
飲食店ジャンル別開業ランキング　過去3年のTOP10比較 ･･･P12
首位交代で見えた、飲食店開業の新たな勢力図 ･･･P13～14

【コラム】「座席数」から読み解く、飲食店の7年間 ― コロナ前から現在までの比較

飲食店は“小さく”なったのか？
座席数から見る2019～2025年の変化 ･･･P16～19

全国飲食店開業レポート ver9　まとめ

全国の開業数は3年間で最多
地域・ジャンルごとに異なる動きが鮮明に ･･･P21
変化を捉え、選ばれる一店へ ･･･P22

Review Marketing Report



全国飲食店開業ランキング
2026年1月～3月
過去3年　開業数比較

飲食店開業全国TOP5/2026年1月～3月



2026年1～3月期の全国飲食店開業動向では、開業数が前年同期を上回る一方、地域やジャンルによって異なる動きが見られました。
また、過去3年間の同期間を比較すると、月別の開業傾向やジャンル別の順位にも特徴が表れており、全体の件数だけでは捉えきれない変化がうかがえます。
本レポートでは、2026年1～3月の全国飲食店開業データをもとに、2024年・2025年の同期間との比較を交えながら、地域別・月別・ジャンル別の動向を多角的に分析し、現在の市場変化を読み解いていきます。

2026年1月～3月の全国飲食店開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。





1位　東京都(1,864件)

観光商圏からビジネス街まで、多様な外食需要が集まる。インバウンド需要の拡大も続き、繁華街を中心に幅広い客層を狙った飲食店の出店が見られる。



2位　大阪府(1,143件)

道頓堀・梅田・天満など、それぞれ異なる個性を持つ飲食エリアが広がる。大阪・関西万博後も国内外からの来訪が続き、観光需要と地元客の双方を取り込む出店が進む。



3位　北海道(1,015件)

海産物やジンギスカン、ラーメンなど、地域の食そのものが観光資源となっている。札幌・すすきのを中心にインバウンドも増加し、北海道らしい食材や専門性を打ち出した店舗の展開が目立つ。



4位　愛知県(1,000件)

喫茶・モーニング文化など、独自の外食文化が根付く。名古屋駅・栄の二大商圏に加え、金山などでもまちづくりが進み、多様な飲食需要を取り込む出店環境が広がっている。



5位　神奈川県(732件)

観光地と個性的な飲食街が共存。横浜では昨年、観光客数・観光消費額が過去最高を記録するなど集客力が高まり、観光・レジャーと日常利用の双方に対応した飲食需要が見られる。

全国飲食店開業ランキング

2026年1月～3月の、全国の飲食店開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2026年1月～3月　全国開業件数　14,003件

	都道府県	合計 開業数	2026年1月 開業数	2026年2月 開業数	2026年3月 開業数
	ALL	14003	3328	4707	5968
1	東京都	1864	451	560	853
2	大阪府	1143	257	355	531
3	北海道	1015	342	366	307
4	愛知県	1000	216	366	418
5	神奈川県	732	176	221	335
6	福岡県	710	165	199	346
7	京都府	676	93	253	330
8	兵庫県	563	140	179	244
9	千葉県	487	93	179	215
10	沖縄県	390	118	125	147
11	埼玉県	382	96	114	172
12	静岡県	341	89	154	98
13	熊本県	305	44	183	78
14	茨城県	273	86	110	77
15	広島県	272	63	87	122
16	鹿児島県	255	59	122	74
17	岡山県	233	58	89	86
18	宮城県	225	48	85	92
19	栃木県	191	49	54	88
20	岐阜県	162	30	57	75
21	福島県	152	36	47	69
22	香川県	150	29	29	92
23	三重県	149	37	55	57
24	山口県	146	32	51	63
25	新潟県	139	31	47	61
26	岩手県	135	30	47	58
27	奈良県	132	32	47	53
28	石川県	131	29	35	67
29	大分県	123	29	38	56
30	愛媛県	122	23	36	63
31	宮崎県	122	33	27	62
32	群馬県	115	29	33	53
33	長崎県	114	25	26	63
34	青森県	111	20	39	52
35	和歌山県	108	30	37	41
36	高知県	105	19	27	59
37	佐賀県	90	18	41	31
38	長野県	89	17	33	39
39	滋賀県	89	22	18	49
40	山梨県	74	24	18	32
41	富山県	73	24	13	36
42	福井県	65	16	25	24
43	徳島県	61	18	16	27
44	山形県	54	13	20	21
45	島根県	52	15	16	21
46	秋田県	43	10	13	20
47	鳥取県	40	14	15	11

全国飲食店開業ランキング/2024年～2026年

次に、2024年～2026年の3年間における、1月～3月の全国の飲食店開業数を比較してみました。
以下のような結果となりました。

※ランキングの順位は2026年に基づきます。

飲食 / 1月～3月開業数				
	都道府県	2024年	2025年	2026年
	ALL	12345	12533	14003
1	東京都	2028	1733	1864
2	大阪府	1098	1120	1143
3	北海道	520	630	1015
4	愛知県	738	876	1000
5	神奈川県	638	620	732
6	福岡県	661	753	710
7	京都府	351	432	676
8	兵庫県	552	524	563
9	千葉県	450	439	487
10	沖縄県	389	372	390
11	埼玉県	432	392	382
12	静岡県	281	355	341
13	熊本県	168	184	305
14	茨城県	248	206	273
15	広島県	252	315	272
16	鹿児島県	194	244	255
17	岡山県	182	207	233
18	宮城県	176	205	225
19	栃木県	181	177	191
20	岐阜県	130	151	162
21	福島県	125	162	152
22	香川県	117	106	150
23	三重県	161	148	149
24	山口県	124	138	146
25	新潟県	127	124	139
26	岩手県	95	93	135
27	奈良県	91	122	132
28	石川県	107	117	131
29	大分県	126	99	123
30	愛媛県	120	115	122
31	宮崎県	146	143	122
32	群馬県	130	102	115
33	長崎県	124	92	114
34	青森県	105	102	111
35	和歌山県	113	95	108
36	高知県	88	82	105
37	佐賀県	69	91	90
38	長野県	99	93	89
39	滋賀県	106	91	89
40	山梨県	56	74	74
41	富山県	69	60	73
42	福井県	112	60	65
43	徳島県	63	67	61
44	山形県	70	66	54
45	島根県	49	53	52
46	秋田県	46	55	43
47	鳥取県	38	48	40

【注釈】過去のレポートから更新された情報もあります

2026年は過去3年間で最多、全3か月で前年を上回る

2026年1～3月の全国の飲食店開業数は14,003件となり、2024年・2025年の同期間を上回りました。月別では1月から3月にかけて開業数が増加し、都道府県別では東京都・大阪府が引き続き上位を維持しています。一方、北海道や京都府など順位を上げた地域も見られ、地域ごとの動きにも変化が表れています。

以下、詳しく見ていきましょう。

2026年1～3月の全国開業数は14,003件で、過去3年間で最多

1～3月期の全国の飲食店開業数は、**2024年から2026年にかけて右肩上がりで増加**しました。**2026年は前年同期から1,470件増え、増加率は約11.7%**となっています。2024年同期との比較では1,658件増で約13.4%増となり、3年間で最も多い水準となりました。2024年から2025年にかけての増加幅が188件だったのに対し、**2025年から2026年は1,470件増加**しており、直近1年間の伸び幅が大きくなっています。

上位10都道府県で全国開業数の6割以上を占める

2026年1～3月の**上位10都道府県の開業数は合計8,580件で、全国14,003件の約61.3%**を占めています。**上位5都道府県だけでも合計5,754件となり、全国の約41.1%**にあたります。また、1位の東京都と2位の大阪府の合計は3,007件で、全国の約21.5%を占めています。開業件数は全国に分布している一方、件数ベースでは上位の都道府県に一定の集中が見られる結果となっています。

2026年は1月・2月・3月すべてで前年および前々年を上回る

2026年の月別開業数は、3か月すべてで2024年・2025年の同月を上回りました。特に、**2026年3月の5,968件は、2024～2026年の1～3月における全9か月の中で最多**となっています。また、**3年間とも1月から2月、2月から3月へと開業数が増加する同じ推移**が確認できます。2026年は1月から2月に1,379件、2月から3月に1,261件増加しており、**3月だけで1～3月全体の約42.6%**を占めています。

東京都・大阪府は3年連続で1位・2位　北海道と京都府が順位を上げる

都道府県別では、**東京都が2024年から2026年まで3年連続で1位、大阪府も3年連続で2位**となりました。上位2都府は3年間を通じて順位が変わっておらず、2026年も東京都1,864件、大阪府1,143件と上位を占めています。
一方、**北海道**は2024年7位、2025年5位、2026年3位、**京都府**は2024年11位、2025年9位、2026年7位と、いずれも3年連続で順位を上げました。**特に北海道は2025年の630件から2026年は1,015件へ、385件と大きく増加**しています。

北海道と京都府の激増を探る

北海道は主要地域で増加、京都府は京都市に集中

2026年1～3月における全国の増加1,470件のうち、北海道が+385件、京都府が+244件で、**2地域だけで増加分の42.8%**を占めています。この2つの都道府県の増加について、地域別・ジャンル別の追加データを比較して、その実態を掘り下げていきます。

【北海道】 札幌市以外でも増加

開業数の多い上位10保健所の対象地域の全てで、前年同期を上回りました。
札幌市の増加幅が最大ですが、帯広など札幌市以外にも増加が広がっています。

地域別の開業数｜各年1～3月合計 （単位:件）

保健所・区分	2024年	2025年	2026年	前年同期比増減
札幌市保健所	189	331	519	+188
帯広保健所	36	45	95	+50
その他8保健所	187	150	241	+91
対象10保健所合計	412	526	855	+329

【京都府】 京都市への集中が進行

京都市で増加する一方、市外の対象地域合計は減少しました。対象地域に占める京都市の割合も、過去3年間で上昇しています。

地域別の開業数と京都市の構成比｜各年1～3月合計 （単位:件）

保健所・区分	2024年	2025年	2026年	前年同期比増減
京都市保健所	286	380	626	+246
その他7保健所	65	52	50	−2
対象8保健所合計	351	432	676	+244
京都市の構成比	81.5%	88.0%	92.6%	+4.6ポイント

札幌市は1～2月　京都市は2～3月に増加が集中

札幌市では年初の増加幅が大きく、京都市では3月の増加が目立ちます。両市では、開業増加が集中する時期に違いが見られます。

月別の前年同月比増加件数と、増加が集中する時期 （単位:件）

保健所	1月	2月	3月	増加合計	増加が集中する時期・割合
札幌市保健所	+85	+94	+9	+188	1~2月:95.2%
京都市保健所	+8	+87	+151	+246	2~3月:96.7%

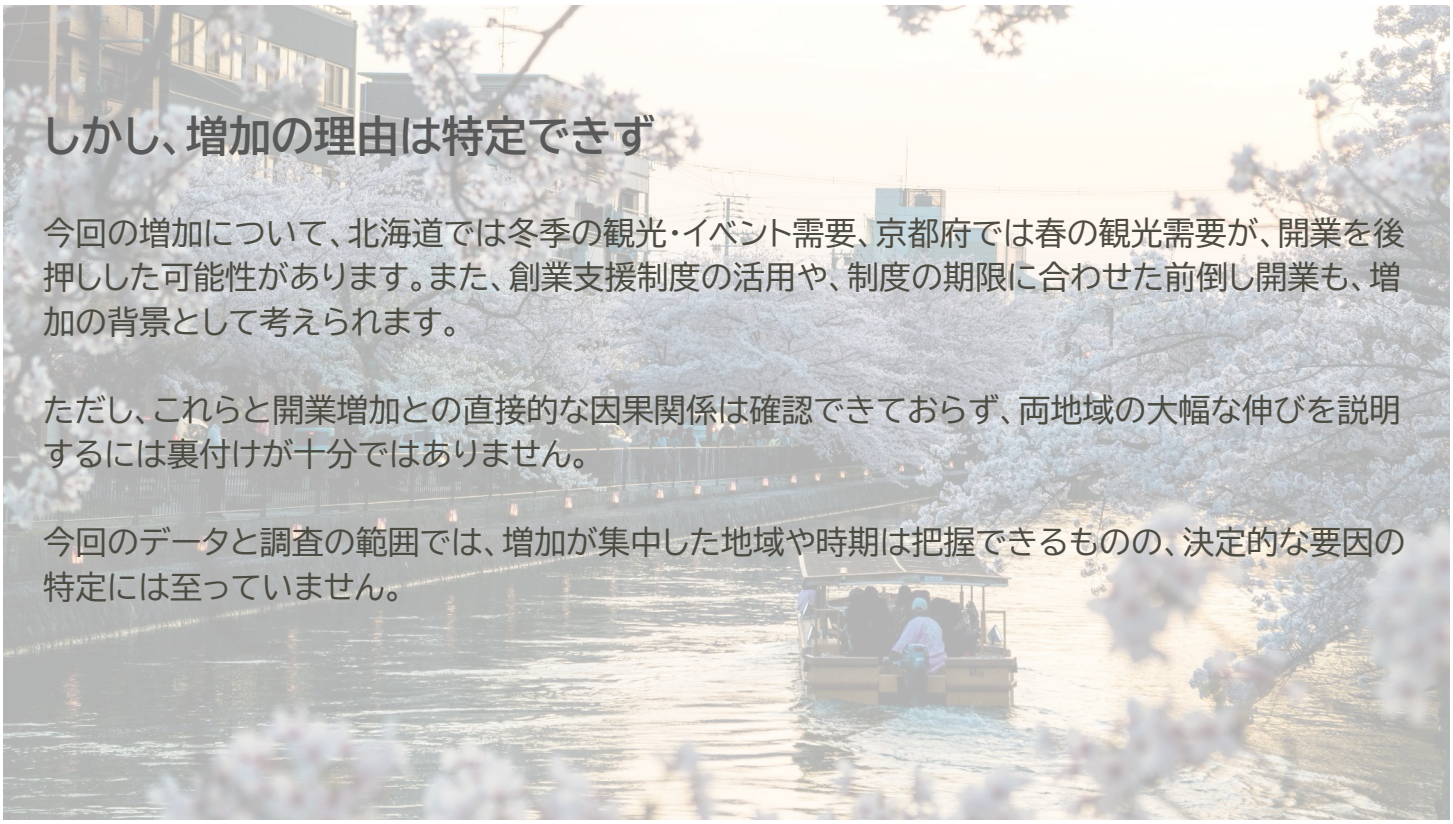
北海道と京都府の激増を探る

両地域で「バー」が増加　伸びたジャンルに違い

比較対象では、両地域とも「バー」の増加件数が最多です。続くジャンルは北海道と京都府で異なり、増加は「バー」だけに限られていません。

増加件数上位3ジャンル｜「その他飲食店」を除く・各年1～3月合計（単位:件）

地域	ジャンル	2024年	2025年	2026年	前年同期比増減
北海道	バー	25	44	98	+54
北海道	カフェ・喫茶店	42	41	74	+33
北海道	一般レストラン	26	18	40	+22
京都府	バー	13	26	51	+25
京都府	お菓子・スイーツ	10	4	15	+11
京都府	ファーストフード	0	3	14	+11



しかし、増加の理由は特定できず

今回の増加について、北海道では冬季の観光・イベント需要、京都府では春の観光需要が、開業を後押しした可能性があります。また、創業支援制度の活用や、制度の期限に合わせた前倒し開業も、増加の背景として考えられます。

ただし、これらと開業増加との直接的な因果関係は確認できておらず、両地域の大幅な伸びを説明するには裏付けが十分ではありません。

今回のデータと調査の範囲では、増加が集中した地域や時期は把握できるものの、決定的な要因の特定には至っていません。

Review Marketing Report



全国飲食店ジャンル別開業ランキング
2026年1月～3月

飲食店ジャンル別開業ランキング

2026年1月から3月に開業した飲食店（全国14,003件）をジャンル別に分析した結果、
次のような結果となりました。

飲食 / 2026年1月～3月		
	ジャンル	開業数
	ALL	14003
1	バー	905
2	飲み屋・居酒屋	824
3	カフェ・喫茶店	737
4	ラーメン	441
5	一般レストラン	357
6	お菓子・スイーツ	352
7	専門料理店	327
8	各国料理	323
9	中華料理	284
10	焼肉	272
11	キャバレー・ナイトクラブ・ラウンジ	220
12	和食・郷土料理	201
13	ファーストフード	166
14	寿司店	158
15	焼き鳥	150
16	カレー店	135
17	肉調理店（焼肉・焼鳥・ステーキ除く）	114
18	お好み焼き・たこ焼き・焼きそば等	106
19	丼・定食	91
20	麺類（うどん）	85
21	麺類（そば）	83
22	鍋料理	43
23	ステーキ	21
24	分類できない飲食店	9
25	料亭	1
26	持ち帰り飲食サービス業	0
27	配達飲食サービス業	0
	その他飲食店	7598

【ジャンル分類について注釈】
Review飲食店データでは、総務省が定める「日本標準産業分類」に基づいて業種分類を行っています。
同分類においては、「中華料理」と「各国料理」はそれぞれ別の分類として定義されています。

飲食店ジャンル別開業ランキング　過去3年のTOP10比較

次に、2024～2026年の1月から3月に開業した飲食店のジャンル別ランキングの、TOP10を比較してみました。次のような結果となりました。

飲食 / 2026年1月～3月		
	ジャンル	開業数
1	バー	905
2	飲み屋・居酒屋	824
3	カフェ・喫茶店	737
4	ラーメン	441
5	一般レストラン	357
6	お菓子・スイーツ	352
7	専門料理店	327
8	各国料理	323
9	中華料理	284
10	焼肉	272

飲食 / 2025年1月～3月		
	ジャンル	開業数
1	飲み屋・居酒屋	1004
2	カフェ・喫茶店	982
3	バー	711
4	ラーメン	489
5	各国料理	458
6	専門料理店	441
7	お菓子・スイーツ	407
8	一般レストラン	370
9	焼肉	281
10	和食・郷土料理	262

飲食 / 2024年1月～3月		
	ジャンル	開業数
1	カフェ・喫茶店	1260
2	飲み屋・居酒屋	1184
3	バー	558
4	各国料理	540
5	ラーメン	521
6	一般レストラン	436
7	専門料理店	423
8	お菓子・スイーツ	337
9	和食・郷土料理	304
10	焼肉	282

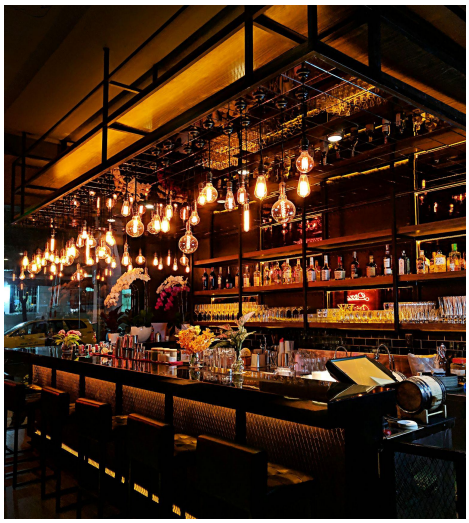
【注釈】過去のレポートから更新された情報もあります

首位交代で見えた、飲食店開業の新たな勢力図

バーが首位に浮上、居酒屋・カフェは2年連続で減少

2026年1～3月のジャンル別開業ランキングは、「バー」が1位、「飲み屋・居酒屋」が2位、「カフェ・喫茶店」が3位となりました。2024年・2025年の同期間と比較すると、上位3ジャンルの顔ぶれは変わらないものの、その順位は入れ替わっています。また、ランキング対象27ジャンルのうち、前年同期から開業件数が増加したのは6ジャンル、減少したのは19ジャンル、横ばいは2ジャンルでした。2026年の特徴を、ランキングと開業件数の両面から整理します。

バーが905件で首位へ　2024年比で6割増



2026年の**「バー」の開業件数は905件で、前年同期の711件から194件増加**しました。前年同期比では27.3%増となり、2024年・2025年の3位から、比較対象の3年間で初めて首位に立ちました。

開業件数は2024年の558件から、2025年711件、2026年905件と2年連続で増加しており、2024年比では347件、62.2%の増加です。**2026年は1月227件、2月328件、3月350件と、いずれの月も前年同月を上回りました。**また、月別の開業件数でも各月の首位となっており、**3か月を通じてランキングの最上位を占めています。**

居酒屋・カフェは2年連続で減少　カフェは2024年比で4割減



2026年に2位となった**「飲み屋・居酒屋」**は824件で、**前年同期の1,004件から180件、17.9%減少**しました。2024年の1,184件から2年連続で減少しており、2024年比では30.4%減となっています。順位も2025年の1位から2位に下がりました。

3位の**「カフェ・喫茶店」**は737件で、**前年同期の982件から245件、24.9%減少**しました。2024年の1,260件と比較すると523件、41.5%の減少です。順位は2024年の1位から、2025年2位、2026年3位と推移しており、開業件数・順位ともに2年連続で低下しています。

首位交代で見えた、飲食店開業の新たな勢力図

上位10ジャンルの8ジャンルが前年割れ　件数が減っても順位が上昇



2026年の上位10ジャンルのうち、**開業件数が前年同期を上回ったのは「バー」と「中華料理」の2ジャンルで、残る8ジャンルは減少**しました。「ラーメン」は前年と同じ4位を維持していますが、開業件数は2024年521件、2025年489件、2026年441件と2年連続で減少し、前年同期比では9.8%減となっています。

一方、「一般レストラン」は357件で前年同期比3.5%減となったものの、順位は8位から5位に上昇しました。「お菓子・スイーツ」も352件で13.5%減となりましたが、順位は7位から6位に上がっています。対照的に、「各国料理」は458件から323件へ29.5%減少し、5位から8位に下がりました。**上位ジャンル間で減少幅に違いがあり、件数の減少と順位の上昇が同時に生じています。**

中華料理がトップ10入り　11位以下はラウンジ・ファーストフードも件数・順位が上昇

「中華料理」は2026年に284件となり、前年同期の242件から42件、17.4%増加しました。2024年の262件も上回り、過去2年の11位から9位に上昇しています。**比較対象の3年間では、初めてトップ10**に入りました。

「キャバレー・ナイトクラブ・ラウンジ」も、2024年131件、2025年150件、2026年220件と2年連続で増加しています。2026年は前年同期比46.7%増となり、順位は2024年16位、2025年14位、2026年11位と上昇しました。また、「ファーストフード」は前年同期の129件から166件へ28.7%増加し、17位から13位に上がっています。前年からの4つの順位上昇は、ランキング対象27ジャンルの中で最大でした。





Review Marketing Report



【コラム】
「座席数」から読み解く、飲食店の7年間
― コロナ前から現在までの比較

飲食店は“小さく”なったのか？ 座席数から見る2019～2025年の変化

7都府県の飲食店開業を座席数で比較

コロナ禍を経て、飲食店の出店スタイルや店舗づくりはどのように変化したのでしょうか。
本コラムでは、店舗規模を示す一つの指標として**「座席数」に着目**し、コロナ前の2019年から2025年までの推移を分析しました。

分析にあたっては、2019～2025年のすべての年で**座席数判明率が25%を超える、東京都・神奈川県・愛知県・京都府・兵庫県・大阪府・福岡県の7都府県を対象**に、開業店舗の座席構成を比較しました。特に20席以下の店舗が占める割合の変化を追いながら、コロナ禍を挟んで店舗の構成がどのように変わったのかを確認していきます。

本コラムで扱う座席の区分

1～5席	6～10席	11～20席	21～50席	51～100席	101～299席

※300席以上はフードコートや球場・会場と見られる割合が多いため、割愛

【データに関する注意事項】

本コラムにおける分析は、コロナ禍前の2019年から直近の2025年までの、すべての年で**座席数判明率が25%を超える7都府県**を対象としています。座席構成は、座席数が確認できた店舗の集計結果であり、**全開業店舗の座席構成を示すものではありません**。判明率は地域・年によっても異なります。判明率は平均の最大値でも50%を超えないため、本コラムは精緻なレポートではなく、あくまでも一つの参考資料としてご理解ください。

各都道府県の座席数の判明率 （各年の全開業数に対して、座席数も判明している店舗の割合）

都道府県	平均値	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
東京都	46.7%	51.5%	50.0%	48.2%	47.2%	43.6%	45.2%	41.2%
神奈川県	41.3%	43.9%	46.2%	40.8%	40.8%	39.7%	39.8%	37.6%
愛知県	40.8%	42.7%	45.9%	40.0%	39.7%	39.5%	40.9%	37.2%
京都府	35.7%	36.5%	33.5%	33.2%	35.6%	37.7%	39.0%	34.5%
兵庫県	36.1%	38.9%	39.3%	36.0%	35.6%	31.5%	36.8%	34.5%
大阪府	37.6%	42.1%	41.7%	36.0%	37.8%	36.9%	37.0%	31.8%
福岡県	30.1%	32.6%	30.7%	29.8%	31.0%	28.4%	31.9%	26.5%

飲食店は“小さく”なったのか？ 座席数から見る2019～2025年の変化

❶ 2025年は6都府県で「21～50席」が最多、うち4都府県は7年連続

直近の2025年は、東京都・神奈川県・愛知県・京都府・大阪府・福岡県の6都府県で「21～50席」が最多となっています。このうち、**東京都・愛知県・大阪府・福岡県では、2019～2025年の7年連続で同区分が最多**です。神奈川県は2023年、京都府は2021年のみ「11～20席」が最多となりましたが、「21～50席」との差はそれぞれ10件未満にとどまっています。
一方、**兵庫県**では2019～2021年の「21～50席」から、**2022年以降は「11～20席」に最多区分**が変わり、**2025年まで4年連続で同区分が最多**となっています。

【2025年】 最多の座席区分と構成比率

都府県	2025年の判明率	最多の座席区分	座席区分の集計件数	最多区分の構成比
東京都	41.2%	21～50席	3,334件	39.1%
神奈川県	37.6%	21～50席	1,074件	35.2%
愛知県	37.2%	21～50席	1,380件	36.4%
京都府	34.5%	21～50席	539件	38.4%
兵庫県	34.5%	11～20席	859件	37.7%
大阪府	31.8%	21～50席	1,580件	37.9%
福岡県	26.5%	21～50席	874件	42.7%

❷ 「20席以下」の構成比は2019年比で6都府県が上昇

次に、座席区分「1～5席」「6～10席」「11～20席」を合計した「20席以下」に注目してみます。
2025年の「20席以下」の構成比をコロナ禍前の2019年と比較すると、6都府県で上昇していました。一方、**京都府のみ0.8ポイント低下**しています。

年次推移(*)を見ると、「20席以下」の構成比が毎年一貫して上昇しているわけではありません。東京都・京都府・兵庫県・大阪府では2022年、神奈川県・愛知県・福岡県では2023年に最高値を記録し、その後は低下する地域も見られます。それでも2025年時点では7都府県中6都府県が2019年を上回っており、**座席数が判明した店舗の範囲では、コロナ禍前と比べて「20席以下」の店舗が占める割合が高まっている**ことが確認できます。 *次ページで一覧を掲示

【2019年→2025年】「20席以下」の構成比

都府県	2019年	2025年	増減
東京都	39.8%	40.8%	+1.0pt
神奈川県	38.0%	46.1%	+8.1pt
愛知県	32.2%	41.5%	+9.3pt
京都府	43.1%	42.3%	▲0.8pt
兵庫県	46.2%	57.0%	+10.8pt
大阪府	41.2%	47.3%	+6.1pt
福岡県	35.8%	41.5%	+5.7pt

飲食店は“小さく”なったのか？ 座席数から見る2019～2025年の変化

❸「20席以下」の構成比増加が示す”小規模化”

2019年と2025年を比較すると、対象7都府県のうち6都府県で「20席以下」の構成比が上昇していました。つまり、座席数が判明した店舗の範囲では、2019年と比べて**小規模店舗の比重が高い地域が多くなっている**、と言えるということです。

「20席以下」の構成比の年次推移
※赤字は各都府県における7年間の最高値

都府県	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
東京都	39.7%	42.9%	42.7%	46.2%	45.0%	41.3%	40.8%
神奈川県	38.0%	39.8%	43.2%	46.6%	48.4%	44.8%	46.1%
愛知県	32.2%	33.1%	36.8%	38.2%	41.8%	37.8%	41.5%
京都府	43.1%	44.1%	52.2%	54.2%	49.3%	50.5%	42.3%
兵庫県	46.2%	45.8%	51.1%	58.6%	57.4%	54.9%	57.0%
大阪府	41.2%	45.1%	49.6%	52.7%	50.3%	45.8%	47.3%
福岡県	35.8%	38.6%	39.1%	48.1%	49.6%	45.5%	41.5%

この推移で特に注目されるのが、**小規模店舗の比重上昇が2022～2023年に集中している**ことです。2019年から2022年にかけては、多くの地域で「20席以下」の構成比が高まり、2021年から2022年にかけては7都府県すべてで上昇しました。一方、その後は上昇が継続せず、2024年には京都府を除く6都府県で前年を下回っています。

したがって、今回のデータから最も説明力が高いのは、「長期的に一方向へ小規模化している」という見方ではなく、**2022～2023年頃に小規模店舗の比重が一時的に高まった**という捉え方です。

この時期は**コロナ禍を経て飲食店の営業環境が大きく変化した時期**と重なります。そのため、客席を多く持つ従来型の店舗だけでなく、**比較的小さな客席で営業する店舗や、テイクアウト・デリバリー等を組み合わせた営業形態が出店時の選択肢になったこと**は、背景要因の一つとして考えられます。

また、人件費・原材料費・賃料など店舗運営に関わるコスト負担も、小規模な店舗を選択する合理性を高める方向に働く要因です。座席数を抑えれば必要な物件面積やホール人員などを抑えやすいため、**コスト上昇局面では小規模店舗が出店形態の選択肢になりやすかったのでは**と考えられます。



飲食店は“小さく”なったのか？ 座席数から見る2019～2025年の変化

❹ まとめ： 小規模化だけでは捉えきれない、店舗規模の変化

今回の分析では、2019～2025年の各年で座席数判明率が25%を超える7都府県を対象に、開業店舗の座席構成を比較しました。「20席以下」の構成比は、2025年には6都府県で2019年を上回ったものの、各地域のピークは2022～2023年にあり、**小規模化が一貫して進んでいるわけではありません**でした。

こうした動きを考えるうえで注目したいのが、飲食店を取り巻く経営環境の変化です。帝国データバンクによると、**2025年の飲食店倒産は900件と過去最多を記録**(*)しています。食材費・光熱費・人件費の上昇に加え、価格転嫁の難しさが経営を圧迫していることが要因の一つと考えられます。

*集計対象：負債1000万円以上・法的整理による倒産

これらの外部データは、座席数の減少を直接証明するものではありません。ただ、限られた人員やコストで採算を確保することが、店舗づくりにおける重要な課題となっていることはうかがえるでしょう。今後の飲食店では、席数を増やして売上規模を追うだけでなく、客単価、回転率、提供方法、必要なスタッフ数を踏まえた店舗設計が、より重要になると言えます。

座席数は単なる店舗規模の指標ではありません。どのような顧客に、どのような体験を、どのような運営体制で提供していくか、その経営判断を映し出す指標として、今後も変化を追っていく必要があるでしょう。



Review Marketing Report



全国飲食店開業レポート ver9　まとめ

全国の開業数は3年間で最多
地域・ジャンルごとに異なる動きが鮮明に

2026年1～3月の全国飲食店開業数は14,003件となり、比較対象の過去3年間で最多を記録しました。一方、都道府県別では北海道・京都府の大幅な増加、ジャンル別では「バー」の首位浮上など、開業動向にはさまざまな変化が見られます。今回の調査から明らかになった主な特徴を振り返ります。

全国の開業数は前年比11.7%増　3月は約6,000件で3年間最多

全国の開業数は2024年の12,345件、2025年の12,533件から、2026年には14,003件へ増加しました。前年同期比では1,470件、11.7%増となっています。

月別では1月3,328件、2月4,707件、3月5,968件と増加し、3月は比較対象の3年間における同月最多を記録しました。3年間とも1月から3月に向けて開業数が増える傾向が続いており、春に向けた開業の集中が確認できます。

北海道・京都府が大幅増　地域によって異なる増加の形

都道府県別では東京都が1,864件で3年連続1位、大阪府が1,143件で3年連続2位となりました。一方、北海道は1,015件で前年同期比61.1%増、京都府は676件で56.5%増と、大幅に増加しています。両地域の増加分は合計629件となり、全国の増加1,470件の42.8%を占めました。

地域別の追加分析では、北海道は上位10保健所の対象地域すべてで開業数が増加したのに対し、京都府は京都市への集中が確認されました。増加の時期も札幌市では1～2月、京都市では2～3月と異なっています。

ジャンル別は「バー」が首位　居酒屋・カフェは減少

「その他飲食店」を除いたジャンル別ランキングでは、「バー」が905件で3年間において初めて首位となりました。2024年から2年連続で増加し、2024年比では62.2%増となっています。

一方、「飲み屋・居酒屋」は824件、「カフェ・喫茶店」は737件となり、いずれも2年連続で減少しました。上位10ジャンルのうち8ジャンルが前年同期を下回る一方、「中華料理」は284件でトップ10入りし、「ラウンジ」や「ファーストフード」などでも増加が見られました。

全国の開業総数が増加するなかでも、地域やジャンルによって動きは一様ではなく、開業動向の違いが明確になった第1四半期となりました。

変化を捉え、選ばれる一店へ

ランキングの先に、これからの店づくりのヒントがあります。

全国で新たな開業が続く一方、その動きは地域やジャンルによって異なります。

総数や順位だけでなく、

「どこで、何が、どう変わっているか」

に目を向けることが、次の出店や事業展開を考える手がかりになります。

大切なのは、開業数が伸びている業態を追うことだけではありません。

地域のお客さまが求めるものを知り、

自店ならではの強みと重ね合わせて、**選ばれる理由をつくること**です。

飲食業界を取り巻く環境が変化し続ける今だからこそ、

開業データを単なるランキングとして捉えるのではなく、

次の出店機会を考えるための手がかりとして活用することが大切です。

本レポートが、新たな出店や店舗づくり、飲食店を支える提案への一歩に
つながれば幸いです。
株式会社Reviewは、これからも開業データを通じて市場の変化を伝え、
飲食業界に携わる皆さまの挑戦に役立つ情報を届けてまいります。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review（リビュー）　広報
担当：五味川
E-mail：gomikawa@re-view.co.jp
https://re-view.jp/